

第 41 回近畿マスタース陸上競技選手権大会 競技注意事項

1. 本大会は 2025 年（公財）日本陸上競技連盟、（公社）日本マスタース陸上競技連合規則及び競技細則ならびに本大会要項およびこの競技注意事項により実施する。

2. 練習について

- (1) トラック種目の練習場は補助競技場とする。
- (2) 投擲種目の練習は危険を伴うので、各種目とも競技開始前に競技役員の指示により行う。

3. 招集について

競技に出場しようとする者（以下「競技者」という）は競技者招集所において競技者係にて点呼を受け、アスリートビブス・腰ナンバーカード・スパイクピンの確認を受けることとする。但し、フィールド種目については腰ナンバーカードは必要としない。

- (1) 招集場所は 2 階コンコース北側
- (2) 招集開始時刻（点呼開始）および招集完了時刻は競技開始時刻を基準とし下記の通りとする。

	トラック競技	フィールド競技
招集開始時刻	30 分前	40 分前
招集完了時刻	20 分前	30 分前

- (3) 競技者は招集開始時刻に第 1 回目の招集を受けること。（2 階コンコース北側）
- (4) 第 2 回目の招集は現地（スタート付近、試技ピット）
競技開始地点（現地）待機場所に集合し、競技者本人が出発係（トラック）、跳躍審判員、投てき審判員（フィールド）の点呼を受け、アスリートビブス、腰ナンバーカード・スパイクピンの確認を受けることとする。ただし、フィールド競技においては腰ナンバーカードを必要としない。
- (5) 他種目を同時に兼ねて出場している競技者は、事前に競技者係に申し出ること。
- (6) 招集完了時刻までに所定の手続きをせず、また、点呼を受けない競技者は当該種目を棄権したもとして処理する。

4. アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは各自持参したものを使用すること。但し、所属する連盟と登録番号が明示されていること。
- (2) 競技者はアスリートビブスを背と胸につけ、安全ピンで四隅を留めること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は背または胸のいずれかにつければよい。
- (3) トラック競技に出場する競技者は、招集場所で写真判定用の腰ナンバーカードを配布するので、招集場所でランニングパンツの右腰に付着すること。
シャツは腰ナンバーカードが見えるようにパンツの中に入れること。腰ナンバ

ーカードはゴール後、係員に返却すること。

- (4) 長距離種目においては背、胸に別ナンバーカードを使用することがある。その場合は競技者招集場所で配布するので、ゴール後係員に返却すること。

5. 競技について

- (1) 競技者の出場する種目の変更、追加は認めない。
- (2) 年令に不正があった場合は失格となる。
- (3) 競技用具・スパイクについて
 - ① 競技用具は棒高跳のポール以外は主催者が用意したものを使用する。
 - ② スパイクのピンは 11 本以内で長さ 9mm 以内とする。ただし、走高跳・やり投げの場合は 12mm 以内とする。(スパイクピンは全天候型を使用しなければならない)
 - ③ 厚底シューズ (WA 規格外) 使用については、2024 年 12 月以降のルールを適用する。
※厚底シューズ、スパイクピンの長さについて、競技中又は競技終了後確認することがある。
- (4) 競技者が着用する衣類には、競技者の所属するクラブ名または団体名以外規定の大きさ以上の製造会社名、商品名、製造会社を意味する図案および商標等の広告的なものを付けてはならない。また、それらの広告を付けた品物および携帯電話、電子機器類などをトラック、フィールドに持ち込んで서는ならない。

6. トラック競技

- (1) 不正スタート「失格」については、号砲前に飛び出した者（地面より手が離れたとき）を失格とする。号砲前もしくは号砲と同時に選手が動いた場合は、全て「警告」とする。
- (2) スターターの合図は英語で行う。
- (3) トラック競技は全てタイムレースで行う。
- (4) 制限時間を設けた種目では、最終の周回が下記の時間を超えた場合、新たな周回に入らず、競技を打ち切る場合がある。
3000m・・・18分 5000m・・・28分 3000mW・・・25分
- (5) フィニッシュ後スタート地点に戻る場合は競技場スタンド外を経由すること。

7. フィールド競技

- (1) 試技順
 - ・試技順は全競技ともプログラム記載の番号順とする。(変更の可能性もある)
 - ・競技中 に他の競技に出場する競技者は、審判主任に必ず申し出ること。その場合その「他の競技」を優先するが、その試技中に失った試技を要求することは出来ない。
- (2) 試技数

・走高跳・棒高跳除くフィールド種目は各クラスとも試技回数は４回とする。
投てきの練習回数は、ハンマー投げは１回、砲丸投・円盤投・やり投は２回とする。

(3) 順位の決め方

・１位の記録が同記録の場合はその競技者の２番目の記録で順位を決める。それでも決まらない場合は、３回目の記録とし以下同様にする。それでも決まらない場合は、生年月日の早い者を上位とする。

(4) 投てき競技の最小重量基準は別表の通り。

(5) 走高跳・棒高跳バーの上げ方は別表を基準とし、審判主任の指示による。

(6) 走幅跳の踏切位置は

種目	男女別	踏切位置
走幅跳	男・女	1m、2m
三段跳	男子	5m、7m、9m、11m、13m
三段跳	女子	3m、5m、7m、9m、11m
立五段跳	男・女	5m、7m、9m、11m